

「瓦版」



2023. April. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

NO.14

より住みやすい街を目指して

～シェムリアップの今を歩こう！～

シェムリアップ州は世界遺産アンコールワットを有し、カンボジアで最も観光が盛んな地域。2018年にプノンペン、バタンバンとともに、日本政府が支援する ASEAN スマートシティ・ネットワーク（ASCN）のパイロット都市として採択されました。2020年11月30日より市内38本の道路整備事業を開始、13カ月ですべての工事が終了し、街は美しく生まれ変わりました。そして今、信号設備、街灯、歩道等の整備が進んでいます。シェムリアップが目指すスマートシティとはどのような姿なのでしょう。



日本の JICA も協力をスタート！

コロナ禍に行われたシェムリアップ市内38本の道路整備事業には、政府の予算1億5,000万ドルが投入されました。コロナ禍で観光客が激減し、経済活動が低迷しているときだからこそこれをチャンスと捉え、道路の幅員拡張や電線の地下埋設を実現しました。

ASCNのパイロット都市に採択されてから、シェムリアップ州政府はJICAに支援を要請し、2020年よりスマート化に向けての指針となるロードマップ作成のための調査に乗り出しました。発表されたロードマップ案は2035年を目標年次とし、複数のプログラムを柱としています。

「スマート化」と言っても様々な定義や考え方がありますが、その基本の一つが「データ」です。情報を収集して課題を分析・解決し、それをもとに適切なサービスを提供して市民生活や民間活動を円滑にしていく一方で、スマートシティに関する情報発信、広報も重要な活動です。具体的な活動や変化を常に国内外に発信し、ASCNはもとより域内・世界へ紹介しなければなりません。

配車アプリがある、電子マネーが使える、Wi-Fi整備がされているということだけでなく、スマートシティは様々なソフト・ハード技術が適切なマネジメントのもとで連携し、活用されることを目指します。日本では「柏の葉スマートシティ（千葉県柏市）」や「スマートシティ加古川（兵庫県加古川市）」が有名です。シェムリアップの課題を把握し、世界のスマートシティの実例を学ぶ場を提供しながら、シェムリアップに最も適したスマート化実現のサポートをするという立場でJICAは様々なインプットを行っていくそうです。今後どのような取り組みが行われるのか注目していきたいですね。

～ ASEAN スマートシティネットワーク ～

2018年11月に行われた日ASEAN首脳会議において「持続可能な都市開発」を目指すべく採択されたもの。ホーチミンやジャカルタなどASEAN域内の26都市が参画。それぞれが抱える環境や交通渋滞などの課題を、最新テクノロジーを活用して解決することにより、市民の生活改善と新たなビジネス機会の創出を目指している。



テーマパーク・公園で自然を楽しもう！

道路整備とともに、州政府は公園や歩道などの整備も行いました。加えて民間経営のテーマパークや公園が新たな行楽地として人気上昇中！

Angkor Green Gardens

2022 年 6 月、コロナの影響で閉鎖したカンボジア文化村の跡地に、ホテル・リゾート開発と運営を手掛ける Dara グループが新しく「Angkor Green Gardens」をオープンしました。主に国内観光客で賑わっています。グランドオープンの 6 月 18 日から 30 日までは入場無料としたところ、この期間中の土曜日の入場者は 7,720 人、日曜日は 10,368 人、平日は約 2,000 人が訪れたそうです。入場者の 98% がカンボジア人で、美しい庭を散策しながら写真撮影を楽しむ姿が多く見られました。

園内にはクメールビレッジのほか、少数民族の村を再現した 12 のゾーンがあります。また、ホテル、博物館、恐竜の庭、水上の家などが 20 ヘクタール以上の広大な土地に点在しています。今後は、地元の人々が作った、化学物質を使わない土産物を販売するナイトマーケットなども計画中とのこと。



アンコール植物園

カンボジアに生息する植物を中心に、その保護と知識の普及を目的として作られた「アンコール植物園」。アンコールワットに向かう道路沿いにある園内には約 500 種類の植物が 5 万本植えられており、シェムリアップの新しい観光スポットの一つとして注目されています。15 ヘクタールの広大な土地で、訪れる客は散歩をしたり運動をしたり、カンボジアの在来植物に触れたりすることができます。



2022 年 5 月 19 日にオープンしたこの植物園のことを聞きつけ、2 日目にはのべ 7,700 人の来場があったそう。この植物園の歴史は古く、実は 2005 年に「アプサラ・スパイス・ガーデン」という名前で存在していました。当時は 2.5 ヘクタールしかなく、観光客にはあまり知られていませんでした。そこで、アプサラ機構がチア・ソパラ副首相兼国土整備・都市計画・建設大臣のサポートを受けて周辺の土地を取得し、植物園整備を行いました。

園内は伝統薬と香辛料ゾーン、芝生と花のゾーン、サトウヤシゾーン、クメール居住ゾーン、森林・野生動物ゾーンの 5 つに分かれており、小高い丘や池、カフェ、果物販売所などもあります。将来的にアプサラ機構はこの植物園を 130 ヘクタールまで広げ、遺跡観光をする観光客や地元の人々のくつろぎの場にしたいそうです。

信 頼 & 安 心

メガネの相沢

事業内容 メガネ・補聴器・サングラス・光学器の販売
設 立 1895 年（明治 28 年）
店 舗 宮城県・福島県・岩手県・山形県（33 店舗）

相沢は江戸時代（1700 年代頃）より代々商家であり、明治期には店名を亀文堂とし、べっ甲細工・宝石類を扱い、また袋物仕立て業を営んでいました。明治 28 年、当時の店主がこれからは眼鏡の需要が大きくなると考え、また手先を使うことに自信があり、眼鏡の取り扱いを始めました。

《快適に見える感動をお届けするために ビジョンケア》

明治 28 年の創業以来、「メガネを売るのではなく快適な『視生活』を提供する」という理念に基づき、お一人おひとりのお客様の快適な視生活をトータルプロデュースし、のちのちまで責任を持ち、サポートすることに力を注いでまいりました。

私たちはこの信念を「ビジョンケア」という言葉に託しています。

すべてのお客様に、誠実にきめ細かく対応し、快適な視生活を提供し、価値あるメガネをお届けするためには、人間性に優れ、高度な専門知識・技術に習熟した社員が必要です。当社では、社員教育・人材育成に長年取り組んでまいりました。

2022 年私たちの眼鏡作製技術は、国家検定資格となり、当社は最高等級である「1 級眼鏡作製技能士」に 140 名が合格し、社員の 7 割以上が国家資格者となりました。

これからも全国に誇れる技術力と専門知識をさらに高め、すべての皆様に「快適に見える感動」をお届けし、健やかで彩り豊かな毎日をサポートしてまいります。

◆本店

仙台市青葉区一番町 3-5-6

1946 年に現在の地に本店を構えた後、幾度かの改装を経て 2010 年に全面建て替え。

常時 3000 枚以上のフレームを揃え、メガネの相沢の旗艦店として多くの皆様にご来店いただいています。



◆メガネの歴史館

仙台市青葉区一番町 4-4-31

（メガネの相沢一番町店 2F）

創業以来、長年収集してきた江戸・明治・大正・昭和各時代の貴重な古眼鏡や、明治時代に書かれた錦絵や絵画など百数十点のコレクションを常設展示しています。（見学は予約制）

